

栄養について

がんの治療では、手術(とくに消化器の外科手術後)、薬物療法、放射線療法(腸管への照射、全脳照射)が、患者さんの食事に影響を与えます。

特に抗癌剤治療は食欲不振、吐き気、胃の不調、便秘/下痢、口内炎、味の変化など、食事に伴う様々な副作用を引き起こします。使用される抗癌剤によって治療開始後に現れる副作用の種類や程度は異なります。副作用による影響として、**食事量が減少し、栄養バランスが崩れて栄養状態の低下、体力や免疫力の低下が起こることがあります。**

治療前から栄養状態をよくしておくことで、副作用によるダメージを少なくしたり、回復が速やかになるように助けたりすることができます。治療中は吐き気止めや整腸剤、下剤/下痢止めなどの薬も上手に使いながら、食事の仕方や食事の内容を工夫することで治療を続けることができます。食事が摂れない場合には、水分摂取も不足しがちなので、経口補水液なので水分摂取をしながら脱水を予防しましょう。症状は人それぞれですので、自分の症状に合ったレシピを参考にしましょう。

手術、抗癌剤、放射線治療が終わったら、適度な運動を合わせて、食事療法による体重コントロールがとても大切です。

こんなことでお困りではないですか？

- がんの治療薬の影響で食欲がない
- がんの治療薬の影響で味がわからなくて食べたくない
- がんの治療薬の影響で下痢/便秘がある
- 体重が減ってきた

普段から体重を測定し
体重の増減を把握しましょう。

私たちが相談にのります！

管理栄養士が相談にのります。治療担当医へご相談ください。
がん相談支援センターでもご相談できます。

説明資料はこちら

がん研究振興財団 資料
静岡がんセンター 書籍
※がん相談支援センターで
資料の閲覧が可能です。

